

# 第Ⅱ部

## 結び

### ●イノベーションの促進とワーク・ライフ・バランスの実現の両立が経済の好循環には重要

少子高齢化による供給制約の下、我が国が経済成長を実現していくためには、第Ⅱ部で確認したように、イノベーション活動の実現による付加価値の向上に加え、女性・高齢者の労働参加が進む中でワーク・ライフ・バランスの実現にも積極的に取り組むことが重要である。平成29年3月に策定された「働き方改革実行計画」においても「日本経済の再生を実現するためには投資やイノベーションの促進を通じた付加価値生産性の向上と、労働参加率の向上を図る必要がある」とされており、これらの取組を同時に行うことの重要性が指摘されている。

本白書の第Ⅱ部においても、AIを始めとしたイノベーション活動の実現による技術進歩の活用は、雇用によらない働き方など柔軟な働き方を生み出しワーク・ライフ・バランスの実現に資することを指摘している一方で、ワーク・ライフ・バランスの実現は人材の有効活用につながりイノベーション活動を活発にさせるという、互いに好循環を生み出す関係にあることを指摘している。

これらの取組のほか、イノベーション活動の促進には先進設備導入等の設備投資の活性化や高度人材の有効活用を始めとした人材マネジメントなどを実施すること、ワーク・ライフ・バランスの実現には企業と労働者が一体となって働く方の意識や職場環境の改善に取り組むことなどが必要であることを明らかにした。以上を踏まえ、供給制約下において、我が国の経済成長をより一層図るために「車の両輪」として、イノベーション活動の実現のみならず、ワーク・ライフ・バランスの実現も併せた取組として「働き方改革」を着実に行うことが求められる。